令和６年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２４012

プロジェクト名能登半島地震復興支援プロジェクト未来へキック！サッカー教室

プロジェクトの概要

１　災害のあった新潟県能登半島の珠洲市のツアーに参加することで私たちが災害の状況を知る。
２　能登半島の珠洲市の災害状況と今後の展望について記録することで他の人たちに伝える。
３　石川県で魅力的な観光地の金沢駅と兼六園と金沢 21 世紀美術館に行くことで石川県に多くの人が訪れるようにする。
４　小学生たちとサッカーを通じて交流し、石川県の魅力と地震の被害状況と地震に対する恐ろしさを知ってもらう。

プロジェクトの結果・成果

日本大学芸術学部の協力を得て、ポスターや缶バッジ、水のパッケージのデザインを制作してもらい、それらを活用することにより、プロジェクトの宣伝やお礼の物資として使いました。
能登半島珠洲市の被災地を巡るツアーに参加し、被害を受けた小学校や津波による流出物、地形の変化、復旧作業の厳しさ、そして復旧活動の進捗を直接見ることにより、能登半島地震の現実をより身近に感じることにより、早く復旧して欲しいと思いました。被害状況や要望を写真に記録することにより、より多くの人に自分と同じように能登について詳しく知れたら良いと考えます。
その後、小学生たちとサッカーを通じて能登や石川県の魅力を伝える予定でしたが、実施が叶わず、次年度に持ち越すこととなりました。予定していた全ての活動を達成することはできなかったが、能登半島珠洲市の被害状況を外部の人々に知ってもらうという本来の目的は達成できたと考えます。その証として、日本大学生産工学部の入試冊子に、私たちが行った珠洲市ツアーの特集が掲載され、より多くの人々に能登の現状を伝えることができました。
次回の自主プロジェクトでは、早い段階から会場や小学生たちとの連携を図り、より効果的に能登の現状を発信できるよう努めたいと考えています。これらの活動を通じて、能登半島珠洲市の復興につながることを願うとともに、将来発生する可能性の高い南海トラフ地震への対策を、多くの人々が意識するきっかけとなれば、本活動の意義はさらに大きなものになると考えています。

活動写真



